

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393500016		
法人名	有限会社 桜花		
事業所名	グループホーム さくらそう A棟		
所在地	岡山県苫田郡鏡野町小座424-1		
自己評価作成日	平成28年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosoCd=3393500016-00&PrefCd=33&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成28年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>他の施設で対応困難と思われる、周辺症状のある利用者も自傷・他害・物品の破損行為がある以外は受け入れている。スタッフにベテランが多く対応が上手である。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>このホームを訪問してリビングに入って、最初に目に飛び込んできたのが、利用者の満面の笑顔だった。他では受け入れが難しい人達が多いホームという雰囲気は少しもなかった。利用者を孤独にさせない、皆平等で、家庭にいるように、自然体で接するというこのホームの姿勢が、利用者が落ち着いた生活が出来ている所以なのだろうと思った。今年度は利用者の半数以上が入れ替わり両ユニットの平均介護度が2.2と軽度で元気な人が多くなった。全体では要介護1の人が一番多い。「元氣すぎるくらい動き、その分口が達者でパワーがいっぱい」と明るく笑う管理者や計画作成担当者は経験豊富なベテラン職員で若い職員を上手く巻き込んでとてもパワフルだ。職員のチームワークの良さは、個別の特色を活かしてその能力を最大限に発揮してくれていることだと聞いた。施設代表は地域貢献にも長年取り組んでおり、講師として派遣する職員も増えてきた。地域と協働し、共生しているホームだと思う。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・基本理念を職員がひとりひとり自覚し業務にあたっている。	理念を玄関、リビングに掲げて日々、職員間で意識付けをすると共に、今年度の目標には「笑顔で過ごす」を挙げている。ホーム内は利用者・職員の笑顔で溢れ、楽しさが伝わって来る。しっかり目標が実践できているのを感じた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域・町内行事へ積極的に参加し小学生、老人会の訪問も受け入れている。	地域との交流はこれまでも積極的にしているが、今年初めてボランティアで消防署の音楽隊の訪問があった。小学校との交流は恒例になっており、地域のボランティアの訪問も多い。地域の行事に参加する機会も多く、日頃から地域に密着した交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域でのイベント等で、施設のアピールや、介護の相談コーナーで地域の方と話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月毎に開催している。家族、地域の方々、行政から参加があり情報交換や意見交換をしている。	定期的に開催している会議には、行政、区長、民生委員等の他に医師や後見人、家族等の参加もある。議事録を見ても情報交換や活発な意見交換がなされているのがよく分かり、有意義な会議になっている。	運営推進会議には地域の多様な職種の人の参加があり有意義な話し合いが行われているが、家族の参加が少ないと感じるので、案内を出したり参加しやすい日時や行事に合わせる等の工夫をしてみるのも良いと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市町村担当者とは、報告、連絡、相談を密に行っている。	鏡野町認知症事例検討会や異職種研修会等に参加したり、困難事例も多く受け入れているので、町の担当者や地域包括職員と密に連携を取り合う事も多く、日頃から協力関係がよく出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・環境、スタッフの対応、薬物など身体拘束に繋がるものがないように改善するよう検討している。	新規入所の人の中には帰宅願望のある人もいるが、ホームに慣れるまで本人の意思に任せ、外に出たい人には満足するまで外気を吸う、ドライブする等して職員が付き添っている。時には家族に連絡して来てもらい落ち着いてもらう事もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・包括等で開催している虐待防止に関する研修に参加している。 ・事業所内でも虐待につながる行為の無いよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護に値する利用者があれば、包括、社協と連絡をとりながら検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所前、契約事項を説明し家族からの不安や疑問を聞き、十分な説明をし、理解、納得を得たうえで契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議、ケア会議等で、利用者家族の意見、要望を聞き随時対応している。	「さくらそう通信」を隔月発行し、請求書と一緒に家族に送付して日常生活の様子をお伝えしている。以前出していた家族への手紙をやめたのは、密に連絡を取る為であり、面会時や電話等で積極的に家族と関わりを持ち、日常的によく話していると聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月職員会議(各棟)を行い職員の意見、提案を検討している。	ミーティングでは、一人ひとりがしっかり意見を言うようにしており、職員個々の特色や持ち分を発揮してもらいチームワークも良い。職員から夜間の避難訓練をしたいという意見もあり、意見や提案は全員で共有し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員が向上心を持って働けるように環境や条件を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修に積極的に参加している。 ・参加者から内容を伝達してもらい、施設内研修としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域交流や研修などの機会を通して、他の事業所スタッフと交流できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前面接をし、利用者本人の不安、要望を把握し安心して入所できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・申し込み時、契約時等に、家族の不安や要望を聞き、安心して利用者を預けられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族、入所前に利用していたケアマネ等から情報を得てニーズを把握し支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入所までの利用者の生活状況を知り、可能な限り継続できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会や電話で家族との対話ができる機会を設け、記録に残すことで家族との繋がりのあることを本人に伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・利用者の情報の中から、馴染みの人や場所を知り、面会や外出の希望があれば、制限することのないようにしている。	利用者は近隣の人が多く、元の職場が同じ、近所の人、客同士の間柄等、昔から顔馴染みの関係にあるので、利用者同士の話も合う。家族の面会もよくあり息子達の面会を楽しみにしている人もいる。職員もそれぞれの馴染みの関係をしっかり支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・9人の男女混合の利用者の関係性を知り、日頃の生活の中でトラブルの無いよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了も信頼関係を継続できるよう交流している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの生きてこられた生活を尊重して何気ない表情や会話の中から希望や思いをくみとり実行できるよう努力している。又、家族の相談や協力をいただいている。	自分の事を知って欲しい、認めて欲しい、気持ちを分かって欲しいという利用者の心の声を「私の姿と気持ちシート」でよく把握している。本人が望むここでの暮らし方や思いを聞き、推測して、職員間で共有し出来る限り意向に添うように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・職員全員で一人ひとりの生活歴や生活環境を把握してもらい、本人にとってより良いサービス内容に繋がっているかを共有して日々努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりのライフスタイルを大切に、日々の心身の状態を見極めて有する能力を引き出せるよう努力して、共に喜び笑顔が見える日常にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人にとって介護計画がより良い暮らしになるよう、本人、家族の要望や思いが反映できる工夫や、努力をしている。又、介護計画が現状に即しているかモニタリングを重視している。	ケアプランの他に生活援助計画を作成し、実践しやすい具体的な目標になっており、毎月アセスメント・ADLの評価もしている。この2つの計画がうまく両立しており、本人・家族の意向を基に職員間で話し合い、日々の生活の中で「心のケア」に則したプランが活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別記録に日々の気づき、工夫した事や大切と思われる事を共有して実践に繋がっている。又、日々変化する日常に介護計画の見直しを共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・社会的にも困難なニーズや家族のニーズが高い場合も積極的に話し合い、柔軟に対応している。又、職員のチームワークで可能にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・町内の地域行事、交流の場にはできるだけ参加しているが、それぞれの暮らししてきた個別の地域うへまでは足をのばせていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族から知らされたかかりつけ医への受診を行っている。	毎日往診をしてくれる協力医には全員がお世話になっており、訪問歯科診療を利用している人もいる。他科受診は原則家族が付添いをしているが、難しい場合は職員が同行することもある。職員に看護師がいるのでとても心強く安心して生活できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・常勤のナースが居り、利用者の健康状態を把握し、ドクターとも連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時、病院と情報交換をし、退院前には病院関係者、家族とカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時に重度化、看取りについて書類にもとずいた同意を得ている。	開設して10年の間に10人の看取りを経験し、今年の春には2日続けて2名の人を見送った。ケア会議を繰り返し最期まで心を込めてお世話し、家族にも満足してもらえ感謝の言葉をいただいた。中には最期まで入浴する事が出来、穏やかに天寿を全うした人もいた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・利用者の急変や事故発生時のマニュアルを作製し、適宜、対応内容を話し合い、時に実践訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に避難訓練を実施し、運営推進会議においても話題提供し協力体制を地域から得ている。	消防署の査察では、防災カーテンにした方が良いとの指導の下、スタッフルームのカーテンを取り外した。また、利用者・職員で消防署の見学に行き、地震や煙での避難体験をしたりDVDで研修をしている。地震・火事・大雨など災害時のマニュアルの見直しもしている。	運営推進会議に参加している地域の人から「避難場所までどうやって行くのか」という質問もあり、今後は避難経路の確認や移動方法・手段等もしっかり話し合ってみて下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者一人ひとりの生活歴や家族歴に配慮し、日々を有意義に過ごせる様声掛けを行っている。	一人ひとりの生活歴を考慮しながら、それまでの生活習慣を大切にしている。トイレつとつても水洗トイレの習慣のない人への配慮や必ずノックしたり風呂場でのプライバシーを尊重する等、職員は羞恥心を感じさせない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者が思いを表現し自己決定できる環境作りや言葉掛けをしている。 ・表現が困難な方には、言葉、表情からニーズを読み取り、代弁する様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・それぞれの生活リズムを尊重している。 ・楽しみを持ちながら穏やかな生活が送れる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・清潔を心がけ、こだわりや好みを尊重し、季節や天候に合った衣類のアドバイスを 行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・畑で作った食材を利用して一緒に食事の下ごしらえをし、楽しい雰囲気ですごすよう気をつけている。 ・片付けも分担し毎回行っている。	職員が献立を考えて買い物をし毎食手作りしている。各ユニットでメニューが違うのも楽しい。殆どの方が自分の箸で食べ完食していた。時間をずらして食べたい人には本人の希望に添っている。野菜のしょうやく、下膳、テーブル拭き等、それぞれ自分の出来る事は手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1回分ずつの水分量を記入し、栄養バランスの良い献立をたて個々の状態に合わせた調理法を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、一人ひとりの状態に応じて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレへ誘導する。 自立を見守り、失敗しても次に活かせる様に、支援を行っている。 	<p>基本は座位での排泄だが、各トイレに男性用便器も設置されており、排泄がほぼ自立の人もいるので、従来の生活習慣を大切にして本人の自由にもっている。個々の排泄パターンを把握し、職員が適宜、声かけや誘導をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 水分をしっかりと摂ってもらっている。 食事に時間をかけ咀嚼してもらう。 適度な運動を職員と一緒にしている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの体調確認して、安全に気持ちよく入浴できるよう気を配り支援している。 一人ひとりの気持ちを大切に、入浴拒否の日は時間を考えたえり、日にちを見合わせる。 	<p>軽度で元気な人が多く午前中に入浴しているが、重度で車椅子の人の場合はシャワー専用機器を使用している。上手な言い訳をする入浴拒否の人でも、職員があの手この手で工夫しながら声かけし、1週間に1回以上は必ず入浴するようにしている。入ってしまえば喜ばれている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生活リズムに合わせ、気持ちよく休息をとれる様に、居室やリビングで傾眠など、自由に過してもらえるよう支援している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 日々の体調を細かく観察して、症状に変化があると、ドクターから支持をもらいすぐに対応できるようにしている。 用法や用量について、職員が把握して服薬せきるようにしている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活のなかで、洗濯物たたみや食器拭き、掃除をスタッフと一緒にしている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の体調や状況によって、買い物、散歩をしている。 	<p>施設代表が運転する大型バスでバス旅行にも出かけており、花見・紅葉狩り等の外出支援が充実している。介護度も軽度で歩ける人が多いので買い物や外出する機会も多く良い気分転換になり、ドライブの途中の夕食も利用者の楽しみの一つになっている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・状況に応じて、お金を出したり、個人で管理できる人には管理して貰っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・自己管理の可能と思われる方には、所持して貰っている。 ・電話は職員を通して使って貰っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・明るく、暖かく、心地良く過せる環境を保つ事を心がけている。 ・壁飾りには、四季に似合った花など、それぞれの手作りで飾った楽しんでもらっている。	リビングに「忠義桜」の歌詞が張っており、歌って聞かせてくれる人もいて、終始賑やかで活気がある。両ユニットに畳コーナーもあり、ここで寛ぐことも出来る。イベントの写真や作品が展示しており、日頃から様々な活動をしている様子がよく分かる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合う利用者同士で隣席に座ってもらい、会話を楽しんでもらう。独りになりたい方には配慮して、その時の居場所を作り心地よい空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者が日ごろ使っていた日用品などを持参して貰い使用する。 ・経過により使用しやすい物を話し合い工夫している。	生活の場をそのまま持ち込み、自分の部屋を持参の箒やモップで掃除する人や、息子の面会日をカレンダーに記入して楽しみにしている人もいた。テレビや本、家族の写真、人形等、馴染みの物を持ち込んで本人らしい居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・入所時のアセスメントに始まり、出来る事、出来ない事をスタッフが把握し、見守り、支援している。		